

## 包近(かねちか)町の桃の花



約300年の歴史を誇る「岸和田だんじり祭り」で有名な大阪府岸和田市にある小さな町、包近(かねちか)町。大阪府内最大の桃の産地であり、100年以上前から桃の栽培が行われている。岸和田のむかし話11「桃と赤鬼(包近)」には、包近の桃栽培にまつわるエピソードが記されている。

包近町の桃畑で桃の花が開花を始めるのは三月下旬頃。見ごろを迎える四月上旬頃にはあたり一面ピンク色に染まる。

五月下旬、桃の実が梅の実ほどの大きさになる。厳しい太陽の光、実を傷つける鳥や病虫害、風雨などから桃を守るために一つずつ丁寧に袋がかけられる。

そして、六月中旬頃から桃の出荷が始まる。早朝に収穫された完熟桃は、岸和田市内や大阪の市場にその日のうちに出荷される。大阪など大都市の消費地に近いこともあり、出荷ぎりぎりまで木に実らせたまま熟させ、完熟の状態でお届けされる。その為全国のスーパーに出回ることはほとんど無い。

極早生品種の「はなよめ」から始まり、以降「日川白鳳」、「白鳳」、「清水白桃」、「まさひめ」と、時期によって品種を変えながら八月上旬頃まで出荷される。

桃はカリウムが多く、高血圧の予防・改善に効果がある。また、ペクチンなどの食物繊維も豊富に含まれているため、整腸作用があり便秘予防にも効果がある。夏の暑い時期には桃に含まれるクエン酸の効果で、疲労回復が期待できる。

参考文献：旬の食材百科

：岸和田市ホームページ

資料提供：岸和田市観光振興協会

「岸ぶら編集部」

